

2年生書道選択の生徒が東京国立博物館で書跡鑑賞会

2月23日、2年生の書道選択者29名が上野の東京国立博物館本館で書跡鑑賞会をおこないました。今回の目的の一つは、平安時代の代表的な古筆「三色紙」の一つ「升色紙」を鑑賞することです。授業の中ですでに原寸大の臨書を試みています。今回の鑑賞会では、本物を見ることでその魅力を実感することができたと思います。本館では他に、良寛や松尾芭蕉の書、奈良時代の写経や、江戸時代の書状など多くの貴重な書跡が展示されています。「日本美術の流れ」をテーマに多くの美術品があり、生徒達は熱心に鑑賞しました。

生徒の感想から

「升色紙」を鑑賞して

- ・自分が書いたものと比べて、太い線と細い線の差があり最後まで線がつながっていて、とても上手かった。
- ・思ったよりも小さく感じた。しかし、じっくり見ていると存在感があって華やかに見えた。本物を見る事が出来てとても嬉しい。

特に印象に残った作品を挙げ、感想を書きなさい。

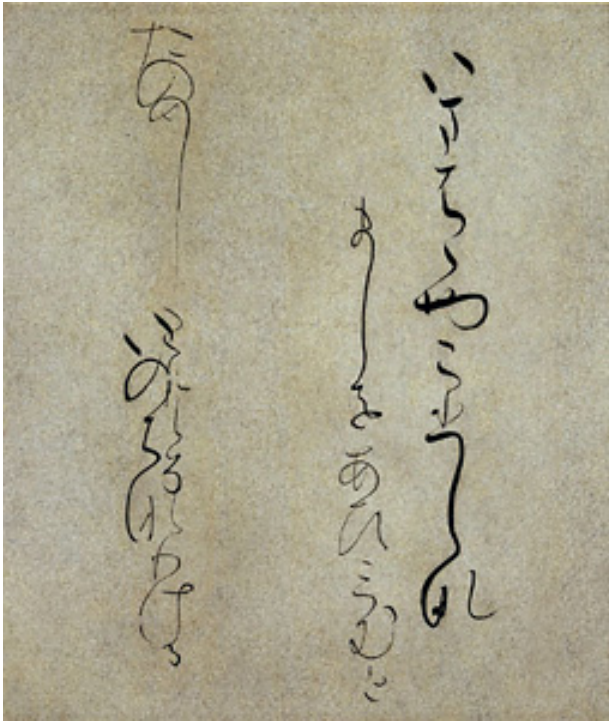
「千手観音像」(国宝)・・・色合いは、数百年経っているからこそ出るものだと思った。

「黒釉文琳茶入」・・・黒く可愛い作品。美学を感じた。

「書状」織田信雄筆・・・織田信長の次男の文字を見られたなんてすごい経験をした。

暖かい午後のひとときでした





升色紙 11世紀 伝藤原行成筆